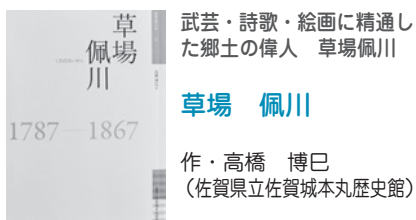


開館時間 (火)～(金) ▶ 9時～17時 ■ 問い合わせ
(土)・(日) ▶ 9時～16時 多久市立図書館 ☎75-2233
休館日 月曜日、図書整理日、祝日、年末年始

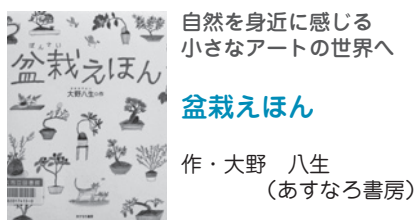
「おすすめの新着本」

「その他おすすめの本」



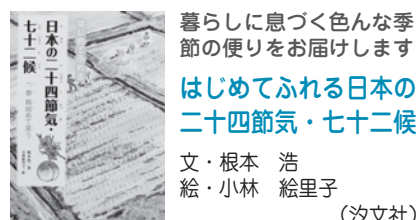
武芸・詩歌・絵画に精通した郷土の偉人 草場佩川
草場 佩川
作・高橋 博巳
(佐賀県立佐賀城本丸歴史館)

佐賀が輩出した偉人についてまとめた「佐賀偉人伝」も、この本で11作目です。いよいよ多久の草場佩川の登場です。3歳にして和歌を暗誦するほどに幼い頃から秀でた才能を発揮。長じて弘道館の教授となり文人としても名を成す佩川の一生を丁寧に描きます。



自然を身近に感じる小さなアートの世界へ
盆栽えほん
作・大野 八生
(あすなろ書房)

春になると様々な植物が芽吹き花を咲かせはじめます。大自然の中にひたるのも楽しいことですが、一年を通じてより身近に自然を感じたり楽しんだり出来る物があります。それは盆栽です。春は新しい盆栽を作るのにより季節だそうです。



暮らしに息づく色んな季節の便りをお届けします
はじめてふれる日本の二十四節気・七十二候
文・根本 浩
絵・小林 絵里子
(汐文社)

移り行く季節を感じる目安となるのが二十四節気です。二十四節気とは、地球が太陽の周りを1年で1回りする360度を15度ずつ24に区切って名前をつけ、季節をより細やかに感じる昔の人たちの知恵です。春を楽しむ1冊です。

子育て支援施設 催しのご案内

児童館 ☎75-6621

いずれも対象は幼児から小学生までです。

◆すこやかタイム

毎週土曜日 10時30分～、13時30分～
2/1(土) おしゃれ封筒作り
2/8(土) おりがみあそび
2/15(土) メルヘンタイム
2/22(土) おひなさま作り
3/1(土) 写真立て作り

◆母と子のサロン

毎週火曜日 10時～12時
内容 おしゃべり会
(第1、3、4火曜日)
ミニ講座、身体測定など
(第2火曜日)
2/18(火) 『こころほかほか
レクリエーション』
時間：10時30分～12時
※身体測定(10時～10時30分まで)
講師：森恵美先生
(日本レクリエーション協会レクリエーションインストラクター)

子育て支援センター

☎75-5780 (杉の子保育園内)

◆子育てクラブ「わくわくランド」

日時 毎週木曜(祝日休み) 10時～12時
場所 多久市児童館

◆園庭開放(杉の子保育園内)

日時 月～土曜日(祝日休み)
9時～14時

◆子育て相談(電話相談可)

日時 月～土曜日(祝日休み)
9時～17時

【2月の休館日】

3日(月)、10日(月)、
11日(火・祝)、
17日(月)、24日(月)、
28日(金・月末整理日)

【みなさんへお願い】

休館日の返却は返却ポストへお願いします。

児童向き

- ◆つんつくせんせいとまほうのじゅうたん (たかどのほっこ)
- ◆まちのおばけずかん (斉藤 洋)
- ◆なぞかけときじろう (もとしいつみ)
- ◆魔女がまちにやってきた (村上 勉)
- ◆そんなときどうする? (センダック)

一般向き

- ◆黒鉄の志士たち (植松 三十里)
- ◆まほろ駅前狂騒曲 (三浦しをん)
- ◆村上海賊の娘 (和田 竜)
- ◆イン・ザ・ヘブン (新井素子)
- ◆名もなき人たちのテーブル (オンダーチエ)

人権教育 No. 202

とも生

「学ぶ」

「同和問題を知らない人に対して、わざわざ教える必要もないのでは?」「同和問題って土農工商...とかでしょ?」「と尋ねられることがあります。同和問題は、同和地区に生まれ育ったことや、同和地区に住んでいることを理由に、結婚を反対されたり、就職や日常生活の中で、さまざまな差別を受けたという、日本固有の重大な人権問題であり、社会問題です。近年では、インターネット上で差別的な内容が頻繁に発信されていることが大きな問題となっています。同和問題を知らない人が、誤った情報や偏った情報を信じ込んでしまったら、それこそ差別のバラマキになってしまいます。また、被差別部落の歴史についても、私たち大人

社会教育指導員
野中久美子

が子どもの頃に学んだ内容と、いくつか変わっている点があります。たとえば、私たち大人が学習してきた江戸時代の身分制度では、「上見て暮らすな、下見て暮らせ」という言葉に代表されるように、辛く厳しい生活だったと学習しました。今は、「百姓や町人とは別に、身分上きびしい高度な専門的知識や技術をもって人々の生活に必要な物を作り、医学の発達等にも貢献するなど当時の社会全体をたくましく生きていた」と学習しています。子どもたちの学校での学びが変わってきている今、私たち大人も様々な研修会に積極的に参加し、同和問題について正しく学ぶことが求められています。